

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成25年7月30日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科人間健康科学系専攻

職 名・学 年 修士課程2回生

氏 名 小 山 優 美 子

助 成 の 種 類	平成25年度 ・ 若手研究者在外研究支援 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	第18回 ヨーロッパスポーツ科学学会		
発 表 題 目	変形性膝関節症患者の歩行時関節内反モーメントに関連する因子は歩容によって異なる		
開 催 場 所	スペイン・バルセロナ		
渡 航 期 間	平成25年6月24日 ～ 平成25年7月1日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	200.000円	
	使用した助成金額	200.000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	渡航費	130.865円
		学会参加費	32.487円
滞在費、交通費等		36.648円	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)		

## 成果の概要

医学研究科人間健康科学系専攻 小山優美子

研究集会名：第18回ヨーロッパスポーツ科学学会

(18th annual Congress of the EUROPEAN COLLEGE OF SPORT SCIENCE)

開催場所：スペイン カタルーニャ州 バルセロナ

Institut Nacional d'Educació Física de Catalunya

渡航期間：平成25年6月24日～7月1日

### 【研究集会の概要】

ヨーロッパスポーツ科学学会は、スポーツ科学分野とその周辺領域、並びにリハビリテーション科学を含む健康科学分野の研究者によって構成される学際的な学会である。この学会は、バイオメカニクスや運動生理学、心理学、分子生物学など様々な観点からスポーツ科学及び健康科学に関する最新の知見を相互に提供し合う場として開催されている。

本学会は4日間の開催であり、その中で、スポーツ科学、健康科学に関する3000題もの研究発表が行われた。研究内容は運動生理学やバイオメカニクスをはじめ、栄養学や心理学など多岐に渡るもので、本学会のテーマである『スポーツ科学の融合』を体現するものであった。また、期間中には各分野に関する教育講演が行われ、報告者の研究分野であるリハビリテーション、特に変形性膝関節症患者に対する運動療法についても講演があり、拝聴することができた。大会最終日には、若手研究者によるYIA (Young Investigators Award) という研究発表のコンペティションも開催され、同年代におけるトップレベルの研究者の、研究やプレゼンテーションの質の高さを感じることもできた。

### 【発表の概要】

変形性膝関節症は中高年者の運動器疾患の中でも特に有病率が高く、その保存的治療としての理学療法の役割は大きい。理学療法の目的としては、症状の軽減や運動機能の改善などが挙げられるが、近年では歩行における動的負荷（特に外的膝関節内反モーメント）に着目した介入研究が多くなされている。しかし、変形性膝関節症患者を対象とした運動療法の動的負荷への効果は、一定の見解を得られていないのが現状である。その原因として、歩容の異なる患者であれば介入によってアプローチすべき運動機能の問題点も異なることが考えられた。そこで本研究では、変形性膝関節症患者の歩容を矢状面での膝関節運動パターンにより分類し、そのパターン毎に歩行時の外的膝関節内反モーメントに関連する因子（筋力、可動域、脊柱アライメント、変形の程度）を検討することを行った。

本研究結果より、歩行パターンの異なる患者では歩行時の外的膝関節内反モーメントに関連する因子は異なっており、歩容の異なる患者に対して歩行時の動的負荷を減ずる目的で理学療法介入を行う場合には、異なった運動機能に着目する必要があることが示唆された。

### 【謝辞】

最後になりましたが、今回の国際研究集会参加に際し、ご支援頂きました京都大学教育研究振興財団に厚く御礼申し上げます。また、貴財団の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。